

令和4年度 第1回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 令和4年8月9日（火） 13時30分～15時40分
2 場 所 市役所本庁舎 5階 全員協議会室
3 出席者 委員11名（欠席3名）
対 面：池田、宇佐美、大西、小林、高尾、田中（孝）、豊田、中林、
山元
オンライン：川淵、長谷川

（委員、敬称略）

4 傍聴人 なし

5 次 第

1 開会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

4 委員自己紹介

5 会長選出

6 議題

（1）総合計画審議会の役割と令和4、5年度の審議会（案）について

（2）健康都市やまと総合計画・前期基本計画における施策の評価について

（3）市民意識調査結果の報告について

7 その他

6 会議資料

資料 1 : 総合計画審議会の役割について

資料 2 : 令和4、5年度の審議会の取組について（案）

資料 3-1 : 施策評価の実施について

資料 3-2 : 施策評価（一次評価）個別目標1-1

※施策評価（二次評価）において使用する資料の例

資料 3-3 : 令和4年度 施策評価（二次評価）

※総計審の施策評価結果を記載するシート（個別目標ごと）の例

【議 事】

会長 : 議題（1）総合計画審議会の役割と令和4、5年度の審議会（案）について、説明を求める。

事務局 : **【資料1、資料2について説明】**

委員 : 今年度予定している審議会について、今回と同じようなハイブリット型で全て開催するのか。

事務局 : 全てハイブリット型で開催する予定である。対面での参加を基本としつつ、オンラインでも参加できるようにしたいと考えている。各委員の参加方法については、都度、希望を伺う予定である。

会長 : 議題（2）健康都市やまと総合計画・前期基本計画における施策の評価について、説明を求める。

事務局 : **【資料3-1、3-2、3-3について説明】**

会長 : 資料3-2に記載されている一次評価は、いわば行政による自己評価で

ある。審議会で行うのは、資料３－３の二次評価であり、学識経験者や公募委員による外部評価となる。今年１２月の審議会までは施策評価を実施し、来年１月からは計画策定について協議を進めていくこととなる。それでは、議題（３）市民意識調査結果の報告について、説明を求める。

事務局：【市民意識調査について説明】

委員：「②あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う」の設問について、全体の経年変化だけでなく、回答者の年齢別の分析も行えば、もっと変化の中身が見えるかもしれないが、そのような資料を作成する予定はあるか。例えば大和市では、７０歳以上の国民健康保険加入者は、特定健診を無料で受けることができる。市が実施する事業の成果を確認する意味でも、年齢別で分析する必要があると感じる。今後の施策評価に関する意見になるかもしれないが、どのように考えているか。

事務局：ご質問いただいた年齢別の分析については、市民意識調査報告書の４７ページに掲載している。報告書では、設問内容に応じて性別や地域別などのクロス集計を行っている。報告書に掲載していないものでもあらためてクロス集計を行うことはできるので、今後、施策評価を行っていく中で、必要であれば対応したい。

委員：市で実施している様々な事業は資料３－３の「計画の体系」にある「目指す成果」や「施策の展開」にどのようにつながっていくのか。

事務局：資料３－２をご覧ください。１ページ目の『「目指す成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）』において、「取り組み内容」ごとに対応する事業を記載している。市では全て必要な事業と考えているところだが、委員の方から見た時に、このような事業が必要である、もしくはこの事業は余計であるといったご意見もあると思う。そのような意見をいただきながら、事業を整理し、より効果的・効率的な施策展開に繋がっていきたいと考えている。

委員：今回の市民意識調査では、５，０００通配布し、有効回答数が２，３９６通となっている。市の人口の約１％の回答数となるが、統計として正確といえるのか。

事務局：統計的に十分な回答数であり、正確であると考えている。市民意識調査はこれまでに６回実施しているが、回収状況は同じような傾向となっている。

委員：市民意識調査報告書４１ページの問４では、２８項目を設定しているが、抽象的な内容が多く、回答者によって捉え方が変わってくるため、市民意識をどこまで正確に反映できているのかと思う。例えば、大和市への愛着度を表す報告書１４ページの問１「あなたは、大和市に愛着を感じていますか」の結果を問４の結果の総まとめとして示せば、２８項目の信憑性が増すのではないか。

事務局：設問が抽象的であることは、事務局としても認識している。しかし、具体的に内容を記述しようとする、設問の量が増え、回答者の負担感が増してしまうおそれがあるため、このような設問としている。また、過去に実施した市民意識調査と経年で比較していくため、同様の設問にしている。問４の２８項目は、「成果を計る指標」として、各施策の達成度合いを確認するための項目であり、委員のご指摘のとおり、愛着度はそ

- れらを総まとめした結果とも捉えられるが、今後の施策評価においては直接の評価対象ではなく、参考データのひとつとしたい。
- 会長 : 施策の進行管理・評価は非常に難しい。評価にあたっては、インプット・アウトプットを確認する必要もあるが、簡単に言うと予算をどのぐらい投入したかがインプット、予算を執行し事業をどれだけ実施したかがアウトプットとなる。では、予算を計画通りに執行すれば、良い結果が出るかということそれはわからない。予算の使い方が間違っていれば、悪い結果になる可能性もある。その結果を確認するひとつの手段が、この市民意識調査であり、行政が実施した事業によって、どのようなアウトカム（成果）が得られたかを市民に評価してもらうものである。愛着度に関する設問の結果は、全ての施策の良い悪いを含むアウトカムになる。この設問だけでは、こういった施策を実施したから愛着を感じてくれたかはわからないけれども、様々な施策の効果で愛着を感じるという成果を生み出すことができたのではないかと、そういったことを確認することが、市民意識調査の意義であると考えている。
- 今年度の審議会では、令和3年度の市民意識調査の結果も踏まえ、今後より良い方向に進むためにはどうすればよいかについて、委員の皆様や市の担当課と意見を交わしながら議論を深めていきたい。
- 委員 : 例えば、「㊸大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う」という設問については、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が平成28年度は38.5%、令和元年度は41.0%、令和3年度は32.7%と変動している。しかし、このようなグラフだけでは変動理由がわからないので、これに関連する市の取り組みを示してもらえると改善に向けた提案をしやすくなる。
- 事務局 : 次回以降の審議会において行う施策評価では、資料3-2のような資料を用いて、令和元年度から3年度までの取り組みや成果などについて説明させていただく。その説明等を踏まえ、委員の皆様から様々なご意見やご提案をいただきたいと考えている。
- 委員 : 市民意識調査報告書39ページをご覧ください。各分野の重要度・満足度を座標で示しているが、市民が重要であると感じている分野の結果にまず注目するべきである。比較的、重要度が高いと考えられている分野については軒並み満足度が向上している。しかし、「地域医療や救急医療に関すること」については、重要度が大きく増している一方、満足度は若干下がっている。これは何を意味するかということ、あくまで推測になるが、新型コロナにより医療に関する状況が変化した影響だと考えられる。重要度が比較的低い分野に関しては、満足度が様々に変化している。今後の審議会において、このような重要度・満足度の変化も参考にしつつ、施策評価を行っていくと良いのではないかと感じた。
- 委員 : 市民意識調査報告書を見ながら、高齢者である私の両親や、文化に携わる友人に同じ質問をしたら、どのような回答が得られるのか興味が湧いた。次回以降の審議会における自身の検討材料とするために、調査票や報告書を審議会委員以外の人に見せても差し支えないか。
- 事務局 : 調査票、報告書ともに市のホームページで公開しており、委員以外の方に見せても差し支えない。会議終了後、各委員宛てに調査票のデータを

- 送付するので、そちらを活用していただきたい。
- 会長 ： 市民意識調査報告書の目次をもう少し細分化してもらえると見やすくなる。特に問4は28項目あるので、ページがわかると調べやすい。
- 事務局 ： 承知した。
- 会長 ： 議題についてはここで終了し、今回の審議会で出た意見等については事務局でまとめることとする。

以 上